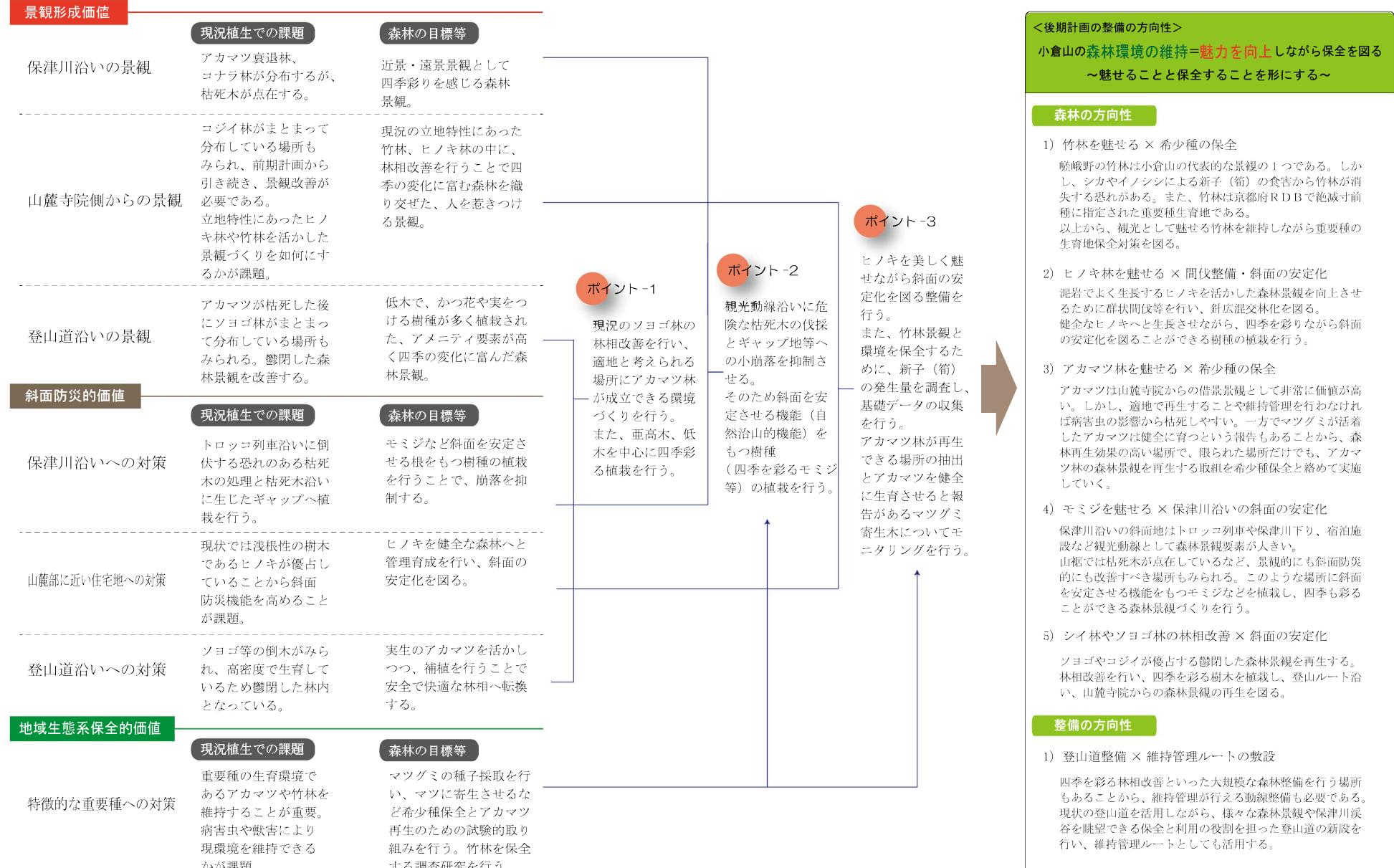


1 基本計画

(1) 後期計画の整備の方向性

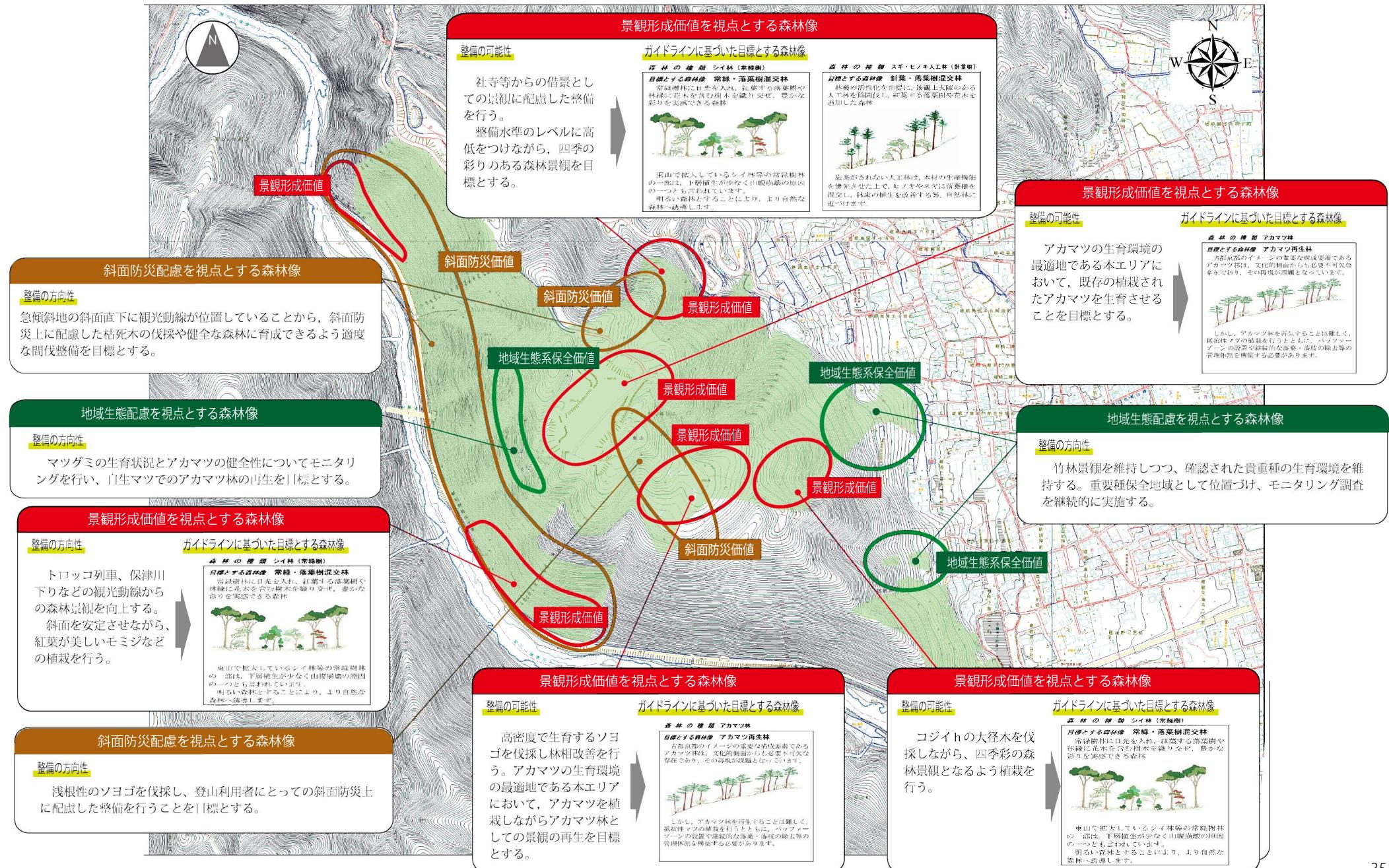
歴史や自然と一体となった小倉山の森林景観の未来を検討していく上で、整備効果の高い立地で「観光動線側」、「山麓寺院側」、「登山道沿い」の3つの立地から、景観形成価値、斜面防災価値、地域生態系保全価値の3つの公益性を照し合せ、森林目標像の検討を行った。検討結果、観光地としても有数の地である小倉山では森林景観として魅せること、防災や生物多様性として保全することの2つの要素が結びついた整備を行うことこそが効果が高いと考えられた。



(2) ゾーニングの検討及び設定

1) ガイドラインに基づいた森林目標像

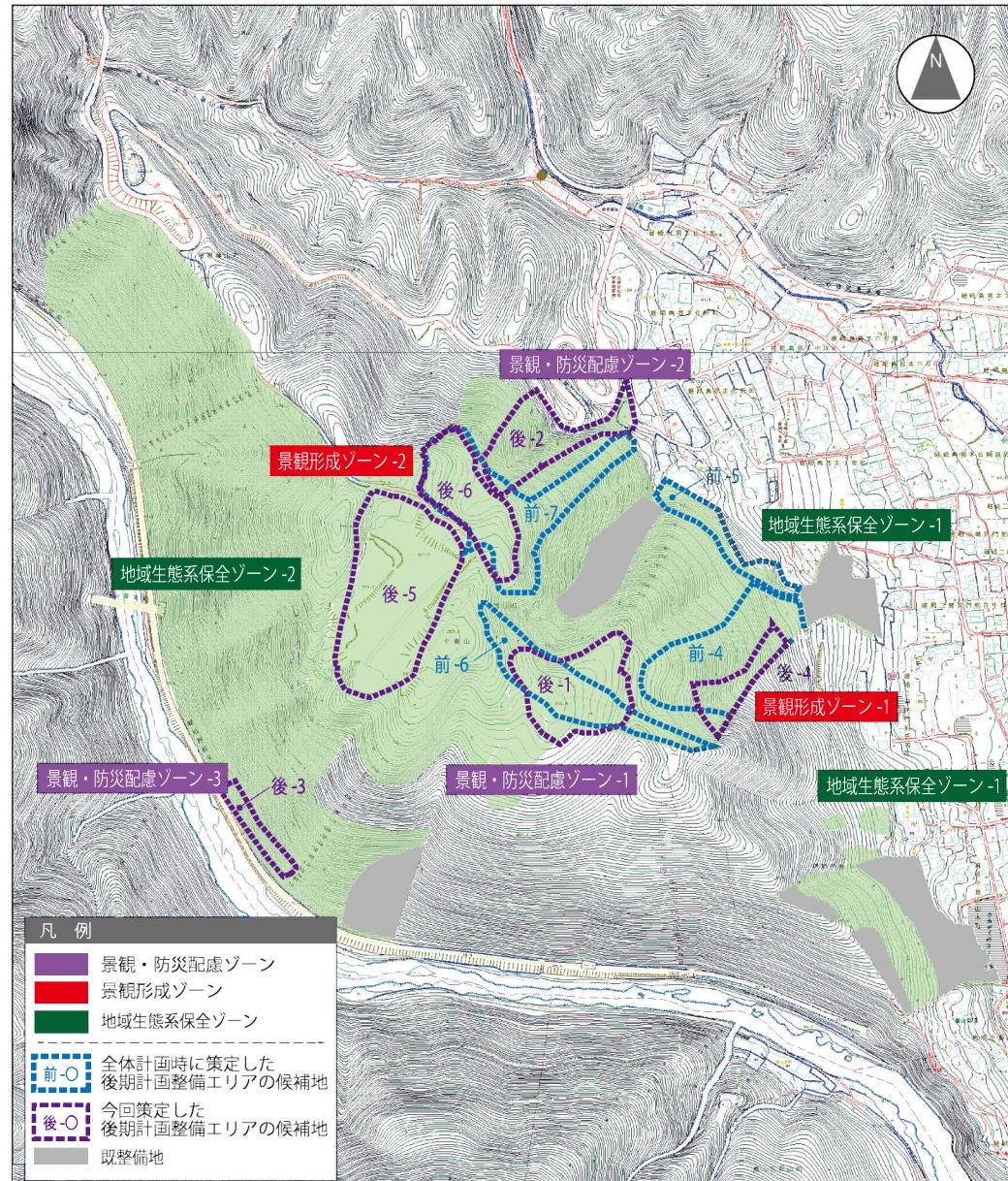
後期計画の整備の方向性をガイドラインの方針に基き、3つの公益的機能の視点から森林目標像として整理した。



第5章 基本計画及び基本設計

2) 整備エリアの検討（前期計画との照し合せ）

前期計画時に抽出された森林の公益的価値の高い整備エリア、また、自然・社会環境の変化に伴い今年度の分析結果から抽出された森林の公益的価値の高い整備エリアは下図のとおりである。なお、後期計画の森林再生事業を実施する面積は7.5ha/5年間である。そのため、各ゾーンの中で整備エリアの候補地を設定し、下記の評価基準により比較検討を行い、後期整備エリアを選定する。



前期計画（5年間の年次計画）の実施箇所を踏まえ、後期計画事業範囲を検討するうえで、「林外景観」「林内景観」「アクセス性」「防災的配慮」の3つの評価軸から考察を行った。なお、各評価軸は、3段階で評価した。

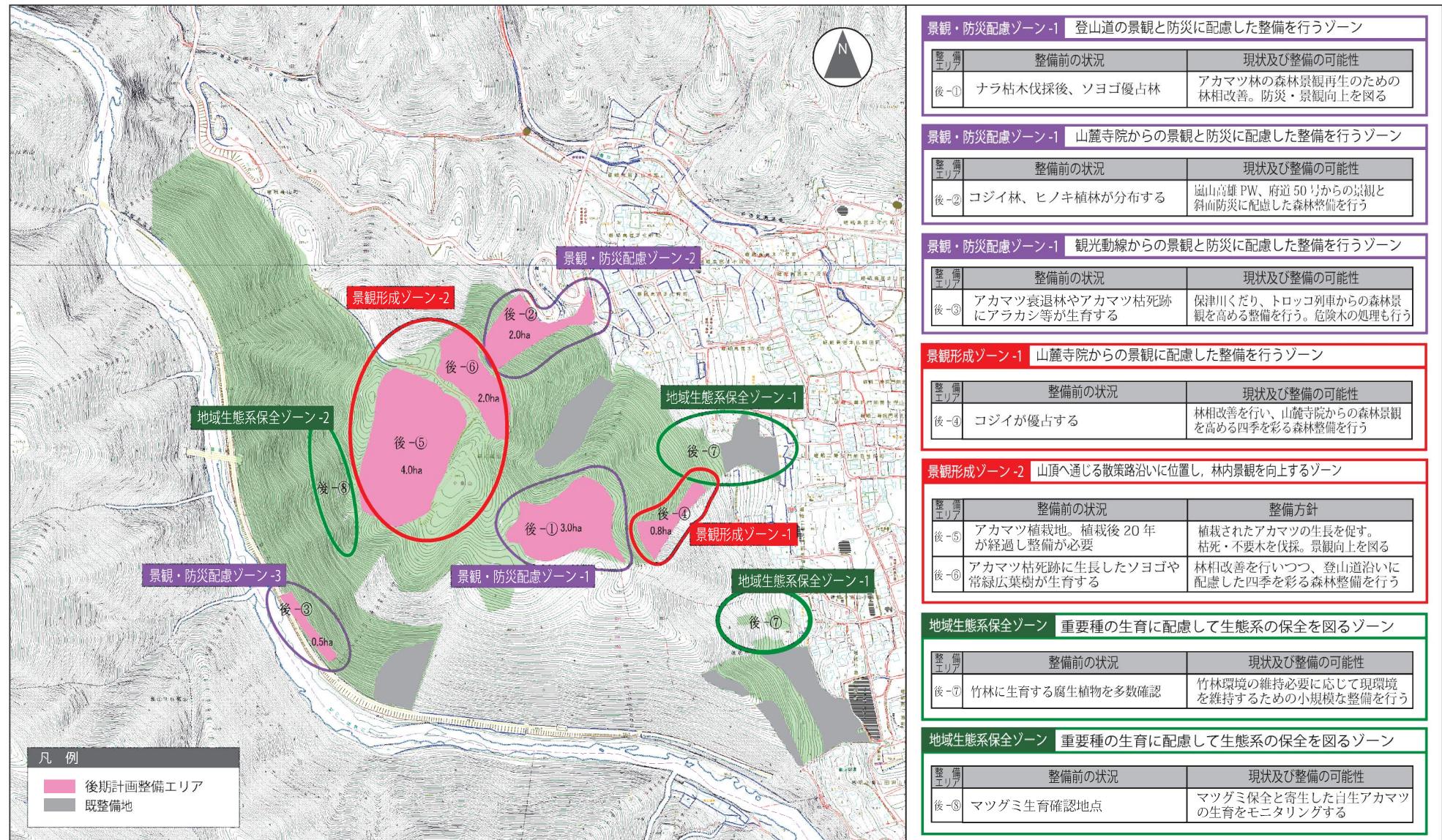
エリア 整備	後期計画における整備エリアを検討するうえでの評価軸（事業効果）				整備エリアとしての 検討結果	
	林外景観（借景景観）	林内景観	防災的配慮	アクセス性		
前-6 後-1	山麓景観の借景林となっているほか、遠景からの可視領域もある。事業効果が高い。	○	登山道沿いのメインルートに面しており、事業効果は高い。	○	アカマツ、コナラ枯死木整備済はあるが、ソヨゴの枯死木等多く点在する。 府立嵐山公園（角山地区）から20分程度かかる。アクセスは極めてよい。	林外景観（山麓の借景林）、林内（登山道沿いの景観）として事業効果高い。ソヨゴ伐採後の林相改善等防災的配慮エリアでもある。優先的に実施。
後-2	鳥居本へ向かうあだしの道沿いと嵐山高雄PWからの可視領域。観光動線として整備効果が高い。	○	嵐山高雄PWの観光動線沿いのため、林内景観と同様の効果あり。	○	剥離性崩壊が連続して起こる可能性が高い。 登山道はないが、踏み分け道程度のアクセス道が続いている。	観光動線沿いの景観改善として効果が高く、ヒノキを健全に生長させ剥離性崩壊を抑制するエリア。優先的に実施。
後-3	トロッコ列車、保津川下りからの観光動線沿いの景観としての整備効果が高い。	○	登山道や参詣道がないが、観光動線沿いのため、林内景観と同様の効果あり。	○	急傾斜地であることから防災的配慮も必要 現状ではアクセスルートがない。維持管理を考えるとアクセスルートの整備が必要。	現状、整備に伴う事業効果は非常に高いが、前期計画の課題をふまえ、アクセスが困難なことが課題。アクセス路さえ解消すれば優先的に実施。
前-4 後-4	前-4と比較すると後-4のエリアが最も景観としての整備効果が高い。あだしへの通じる観光動線沿いから視認性が高い。	○	登山道や参詣道も通っていないことから林内景観景観としての効果はなし	×	アカマツ、コナラ枯死木整備済 現状ではアクセスルートがない。維持管理を考えるとアクセスルートの整備が必要。	コジイ林の林相改善として事業効果が高い。山麓寺院からの景観が向上すると考えられる。アクセス路さえ解消すれば優先的に実施。
後-5	山頂付近の平坦地。林外景観としての効果は低い。	×	登山道沿いのメインルートに面しており事業効果は高い。	○	ザイセンチュウによるアカマツの枯死木が点在。伐採、焼却等の継続した対策が必要。 亀山公園から20分程度かかる。アクセスは極めてよい。 平坦地であることから施設性も高い。	林外景観としての評価は低いが、登山利用者の増加に伴い林内景観の価値は高い。平坦地でアクセスがよいことから事業効果の維持が優先的である。
前-7 後-6	山麓景観の借景林となっているが、遠景からの可視領域。	○	登山道沿いから北東斜面の町並みが眺望できる。 登山道沿いの鬱蔽した景観改善としての整備の効果は高い。	○	アカマツ、コナラ枯死木整備済 登山道に面している場所のみアクセス容易。 山麓部にかけてはアクセス困難。	山頂に近い登山道沿いを整備することにより、林内・林外景観として事業効果が高い。シカの寝床になっている可能性が高く対策が必要。
前-5	山麓の麓に位置しており、住宅地が連続する場所であることから山麓寺院からの被視性は若干劣る。	△	登山道や参詷道も通っていないことから林内景観景観としての効果はなし	×	アカマツ、コナラ枯死木整備済 登山道沿いの平坦地であるが、山麓から距離があり、アクセスが困難。	枯死木伐採など林外景観に配慮した一定の効果がみられたことから、整備の優先順位は低い。

【※林外景観】 森林景観を向上させることによる効果が期待される度合い（山麓寺院の境内地等との連続・一体性、背景林としての重要度、可視領域等）
 【※林内景観】 登山利用者の増加に伴い、林内景観としての価値の重要性も高まっていることから林内のアメニティ要素を向上させる整備の必要性
 【防災的配慮】 駆山防災上の整備の必要性
 【アクセス性】 整備後の維持管理や地域の自主的な森づくり活動の場としての地理的な適地性（アクセスのしやすさ、傾斜角度など斜面の状況）

3) ゾーニング及び整備エリアの選定

後期計画整備エリアの比較検討により次の整備エリアを後期計画の整備エリアと選定した。

なお、整備想定面積は後-1: 3.0ha、後-2: 2.0ha、後-3: 0.5ha、後-4: 0.8ha、後-5: 4.0haで合計 12.3ha となり整備実施面積 7.5ha（後期計画での整備目標面積）を超えていることから、後述する具体的な整備実施に際し、整備方法等を勘案しながら概ね 7.5ha に絞り込むこととする。



(3) 立地類型区分（対応する立地類型の考察）

森林の基盤を形成する表層地質や地形の凹凸などの5つの条件を重ね、実態調査結果から17種類に分類しており、これを「森林立地類型」として区分している。（「京都市三山森林景観保全・再生ガイドライン」より）

立地類型には、その対象地で保全・再生可能な複数の森林類型があり、森林類型の組み合わせによって、対象地の条件に適した森林像を求めることができる。また、森林立地類型は、表層地質、地形の凹凸、堆積区分、斜面勾配（傾斜）、表層土粒径により区分される（下図参照）。ここでは、目標とする森林像を考察するため、先の評価軸を照し合せながら森林の立地類型区分を行った。

1) 各項目の調査結果の概要

■ 表層地質

小倉山では東側、西側斜面で表層地質が大きく異なる。

東側斜面では緩やかな地形と急傾斜な地形が入り組んでおり、主に東側斜面では流れ盤斜面地の特性から、水はけの悪い泥岩の地質となっている。

また、西側斜面では受け盤斜面であり、急傾斜地の特性を反映して泥岩およびチャート混じりの表層地質となっている。

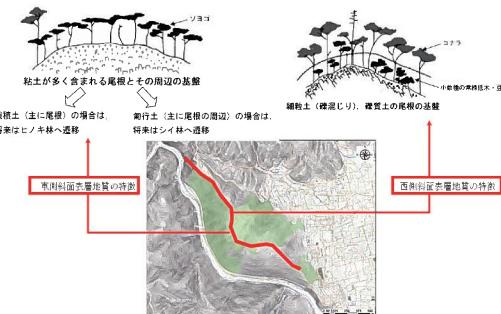


図2-2 小倉山における表層地質の特徴
出典：平成28年 京都市三山森林景観保全・再生ガイドライン

■ 地形の凹凸

地形の凸凹は、いずれの場所においても谷と尾根の微地形が随所にみられ、それに応じた森林類型が成立している。

■ 堆積区分

堆積区分は大部分が残積土となっている。匍行土、崩積土は土溜り的環境が僅かにみられる。特に、斜面東側では、緩やかな地形を反映して、崩積性基盤のような土溜り的環境がみられる。

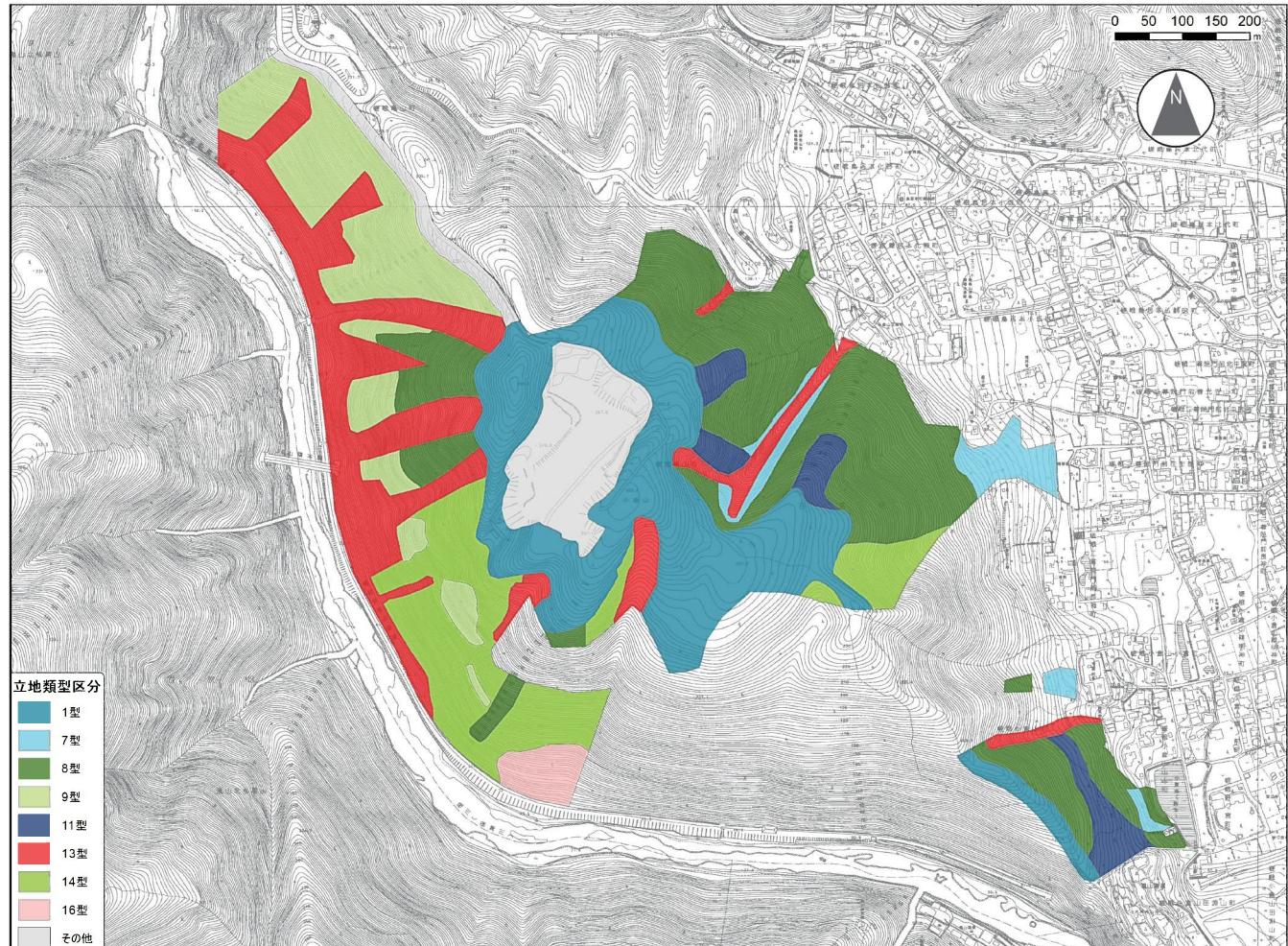
■ 斜面勾配（傾斜）

山頂付近、および東側斜面の一部では緩やかな地形となっており、斜面傾斜が $5^{\circ} \sim 10^{\circ}$ 程度の地形がみられる。

また、西側斜面はほとんど急傾斜地であるが、東側斜面にも急傾斜地が多く $35^{\circ} \sim 45^{\circ}$ の地形も多い。

■ 表層土粒径

斜面東側では、緩やかな地形を反映して、崩積性基盤のような土溜り的環境がみられる。このような立地環境を反映して、東側斜面では水の流れが悪いことから粘土質の土壤となっており、西側斜面では、切り立った急傾斜地にチャート交じりの泥岩と細粒土が入り組んだ表層土粒径となっている。



立地類型の区分	表層地質	地形の凹凸	堆積区分	斜面勾配(傾斜)	表層土粒径	対応する森林類型例
1	花崗岩 泥岩 変成岩 チャート	おもに凸型	残積土 匍行土 崩積土	全ての傾斜 (緩斜面が多い)	粘性土	アカマツ林 ツツジ科低木林 ヒノキ林 他
7	泥岩 変成岩 チャート	凸型	崩積土	全ての傾斜	細粒土、砂質土、 礫質土、岩盤筋理	イロハモジ林 タムシバ林 他
8	匍行土			30° 以上	細粒土、礫質土	シイ林 他

立地類型の区分	表層地質	地形の凹凸	堆積区分	斜面勾配(傾斜)	表層土粒径	対応する森林類型例
9	泥岩 変成岩 チャート	凸型	残積土 匍行土	30° 以上	岩盤筋理	アカガシ林 他
11				30° 未満	礫質土	ウラジロモミ林 他
13		非凸型 おもに平衡(*1)	崩積土 残積土 匍行土	全ての傾斜	礫質土	カツラ林 他
14				30° 以上	細粒土、礫質土	イロハモジ林 他
16				30° 未満	礫質土	ウラジロガシ林 他